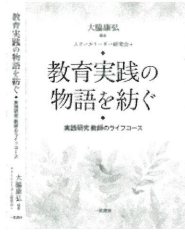


【省察するスクールリーダー】 第44回

『教育実践の物語を紡ぐ』刊行 ―教師のライフコースを省察・探究・再構成する協働実践研究―

大阪教育大学名誉教授 大脇康弘



1. 「実践研究 教師のライフコース」の概要

令和6年3月に編著『教育実践の物語を紡ぐ』を一莖書房より刊行しました。スクールリーダー研究会が取り組んできたプロジェクト「実践研究 教師のライフコース」(2015～2023年度)の研究成果です。本誌連載第36回～第43回でその一端を報告してきましたが、今回はその全体像を紹介します。

「実践研究 教師のライフコース」は、教師が教育実践の「物語を紡ぐ」作業に取り組みます。スクールリーダーの場合、若年期、中堅期、教頭期(指導主事期)、校長期の四つの時期を設定します。各時期の教育実践を「塊り」として取り出し「コンセプトとストーリー」を持つ物語として再構成していきます。各時期で「1実践1事例」に絞ることが肝要です。教育実践の焦点化を図り、その内容と過程、組織と条件について簡潔かつ「リアルに具体的に記述する」のです。そして、四つの時期の教育実践をゆるやかにつないでいきます。「教育実践の山脈(やまなみ)を描く」のです。

この実践者の当事者研究を、研究者(大脇)が梓づけ助言し支援する「協働実践研究」として取り組みました。これを通して、教師は「教育実践の軌跡と生き方」をロングスパンで把握し、自らのライフコースを「省察・探究・再構成」します。書名を『教育実践の物語を紡ぐ―実践研究 教師のライフコース』とした次第です。

2. 「実践研究 教師のライフコース」の特徴

「実践研究 教師のライフコース」の認識枠組・方法として、「要綱」を示して実践研究の羅針盤としました。認識論として「理論知・実践知対話論」を提起し、実践研究論文の基本要件を示しました。具体的形式は、実践者当たりA4判(23字×38行

×2段組)12頁を原則とし、内訳は4期10頁(各期2.5頁)、ライフコースシート1頁、実践研究の意義と難しさ1頁としました。教育実践を焦点化し重点的に描くことを要請したのです。

このプロジェクトに参画した教師6名は、スクールリーダー研究会会員で、長年学校づくりの実践研究に取り組んできた男性・女性教師です。関西地域の小・中・高校にスクールリーダーとして勤務し、現在60代後半～70代前半の年齢層です。彼/彼女は教育実践者と実践研究者という二面性を持ち、実践的・状況対応的思考と理論的・実証的思考という対立・葛藤を内包するハイブリッドな思考の中で生き抜いてきた人々です。「学び続ける教師」「実践研究する教師」の先達者でもあります。本書では、この研究グループを「スクールリーダー研究会コーホート」(SLA Cohort)と呼びます。

教師のライフコースを「省察・探究・再構成」することは難しい作業です。プロジェクト「実践研究 教師のライフコース」要綱には、留意点を次のように記載しています。

- 自分のための記録、思い出、振り返りにしない。
- 教育実践の意味づけは、必要最小限に止める。時期ごとには行わないで、文末におく。
- 教育実践のテーマが絞られているか、それを「リアルに具体的に」描けているか、これがプロジェクトの肝である。

ここには教師が教育実践における「焦点化・重点化」を図る一方で、教育実践の記述・説明について「抑制と禁欲」を喚起しています。先行論文や先行事例に学んで、「1実践1事例」とし、テーマとストーリーを明確にして、実践を物語として再構成することが必要不可欠です。

スクールリーダーは実践研究に取り組むことを通して、実践を省察し再構成すると共に、教職アイデ

ンティティを再定義することになります。その意味で、「実践研究 教師のライフコース」は新たな実践世界を拓く扉となりうるのです。

3. 本書の内容構成

内容は、次の三部構成で各4章の全12章です。

第Ⅰ部 「実践研究 教師のライフコース」を創る

1章 「実践研究 教師のライフコース」を拓く

大脇康弘

2章 Go Beyond the Borders

田中満公子

3章 教師のライフストーリーを読む

高井良健一

4章 Yなすことで得られた学びの連鎖

中山大嘉俊

X教師が育つ環境 教師を育てる環境

中山大嘉俊

第Ⅱ部 教育実践の山脈を描く

5章 教師として問い続けた「学ぶということ」

西川 潔

6章 同僚・生徒・保護者や地域との関わりの中で育つ

太田洋子

7章 学校教育活動の内発的改善に取り組む

長井勘治

8章 学校づくり実践と教員としての成長

深野康久

第Ⅲ部 教師研究のアプローチ

9章 教師の成長とその条件

油布佐和子

10章 教師が学び合う「実践研究」の方法

石井英真

11章 「教師のライフストーリー研究」の射程

高井良健一

12章 スクールリーダーの実践研究を育む

大脇康弘

4. 本書が開拓したもの

本書の第2章、第4章～第8章は読み応えのある実践研究論文です。置かれた文脈・状況の中で課題を切り拓く実践が描かれています。時には危機に直面して悔いが残る実践が後に生かされた事例が自己開示されています。そこには教育実践の内実が刻まれ、当事者の願いや情動も書き込まれています。

それは教師の発達にとって重要な取り組みですが、成功物語ではなく「課題に挑み手応えを得た物語」といえます。

本書は、「実践研究 教師のライフコース」の形式・内容・方法を示して、「スクールリーダー研究会コーホート」(SLA Cohort)6名が教師のライフコースを「省察・探究・再構成」し実践研究論文にまとめました。研究者(大脇)がこの実践研究の取り組みに同行し、梓づけ助言し支援してきました。

これは教師のライフコース研究を継承しながら、実践者自らが研究者との協働実践研究を通して、教育実践の物語を紡ぐという新たな研究領域を開拓するものです。教師自らがライフコースをロングスパンで振り返り、教育実践の山脈を描く取り組みは独創的な内容・形式であり、実践研究として有効です。教職大学院の現職院生をはじめ教師が自らの実践を「省察・探究・再構成」する方法として参照できます。

教師が教育実践の物語を紡ぎ出す研究作業には、自己の教職経験を省察するためだけではなく、これを次世代教師に伝えたいとの願いが込められています。教育実践の物語を紡ぎ、教育実践のバトンを次世代につなぎたいと考えています。教育関係者の方々に一読いただきたい書籍です。

【書誌情報】『教育実践の物語を紡ぐ―実践研究 教師のライフコース』大脇康弘編著、一莖書房、2024年、A5判271頁、2750円(税込) ISBN978-4-87074-263-5 C3037

執筆者：大脇康弘(大阪教育大学名誉教授) 田中満公子(大阪教育大学) 中山大嘉俊(武庫川女子大学) 西川潔(関西福祉科学大学) 太田洋子(伊丹市教育委員) 長井勘治(武庫川女子大学) 深野康久(元大阪教育大学) 油布佐和子(早稲田大学) 石井英真(京都大学) 高井良健一(東京経済大学)、教育研究者4名+実践研究者6名。

【プロフィール】大脇康弘(おおわき・やすひろ) 教育経営学・教師教育学専攻。大阪教育大学教授、ペンシルベニア大学客員研究員、関西福祉科学大学教授を歴任。編著に『若手教師を育てるマネジメント―新たなライフコースを創る指導と支援』ぎょうせい、『東アジア的教師の今』東京学芸大学出版会。